

**2 家族支援 ～ 来所相談～**

Aさんの生活は、昼夜逆転していた。調子の良い時と悪い時の波があるようで、調子が良い時には、自分の好きな趣味関連での外出が出来ているが、不調の時期には閉じこもってしまう。母親は、不調時のAさんからの長時間の話し相手になることを始め、どんなふうにAさんと関わっていけばよいか悩んでいた。

相談員は、母親がAさんの不調の波に翻弄されすぎないように励まし、シーンごとの言葉の掛け方や、良い変化を父親とも共有することなどを助言。

1年ほどの定期的な家族面談を続けていく中で、Aさん自身にも会いたいことを母親経由で伝えてもらい、訪問か来所かを選んでもらうよう提案した。

**1 相談支援課への相談 ～ 家族からの場合～**

対象者:Aさん(20代男性)  
 Aさんは、小中学校時にはたびたび登校しづらい時期があり、思春期には情緒不安定さから心療内科を受診していたこともあった。

卒業後は短時間のアルバイトを始めたAさんだったが、母親やきょうだいに対する暴言や、物の破壊が出現。大量服薬や危険行為などの自殺行為も繰り返され、アルバイトも退職することとなった。

**3 本人支援 ～ 来所相談～**

母親同伴で来所したAさんは、一人で面談することを希望。しかし、本人面談が開始した当初は、続けて面談に来られる時期もあれば、代わりに母親が来談するような回も何回かあった。

面談が継続できるようになっていくと、相談員以外の人との関わりが次の目標として設定された。他スタッフも交えたレクリエーションを重ね、Aさんは徐々に対人場面の経験と自信とを積み重ねていった様子であった。

母親は一人で過ごしたいというAさんの思いを汲み、家族が外出する機会を増やすよう心掛けてみた。一人で生活する機会をたびたび経験できたAさんは、一人暮らししたいという思いに現実味が増してきた様子であった。

**4 関係機関紹介 ～ 居場所・就業支援～**

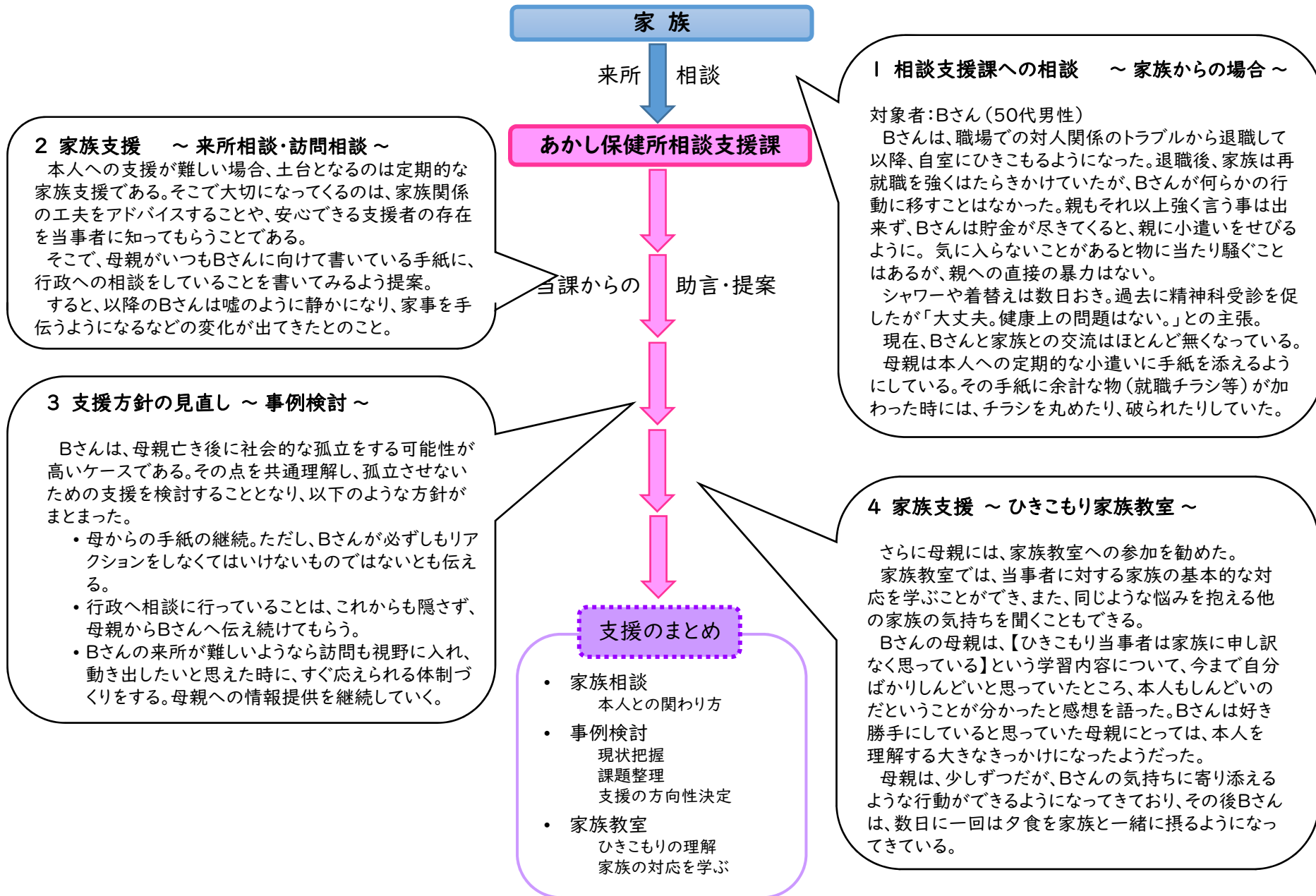
日中の活動について考えるようになったAさんに、相談員が居場所見学を働きかけ、同行して活動参加することができた。初めて会う人との対話の中で緊張の高まる場面があってもAさんは応答することができており、相談員は変化を感じている。

一人暮らしをしたいという思いについても、Aさんは相談員と話し合いを重ね、自立するためには就業したいと考えるようになった。就業に向けた取り組みとして、Aさんは若者サポートステーションの利用を希望。

安心できる支援者にサポートしてもらうことで、新しい人や場面との関わりを広げていける意欲を持ち続けられるようになってきている。

- 支援のまとめ**
- 家族相談  
本人との関わり方
  - 本人相談  
状況と気持ちの整理  
目標設定
  - 関係機関紹介  
居場所  
若者サポートステーション

※ 個人情報保護のため、実際にあった相談によりつつ、個人の特定につながらないように加工しています。



※ 個人情報保護のため、実際にあった相談によりつつ、個人の特定につながらないよう加工しています。